

# マスクも、授業も、材料もない

プロダクトモデリング

4月8日から始まる予定だった授業が4月中旬へ、そして下旬に延期となり、始められた授業もインターネットを使って行う「遠隔授業」という形態で、ものづくりを扱う科目としては致命的だった。また、その時期には世界的に感染が拡がっており、マスクの原材料である不織布やゴム紐も入手が困難となり、今以上に感染拡大への不安が募る時期でもあった。デザインは「社会の問題を解決する為にある」という言葉は真意なのだろうか。材料も入手できない状況のなかで、デザインの意義を問われているように感じた。

## 課題のテーマ

コロナウイルスの感染防止のために、今、私たちはデザインで何ができるか

## モチーフ

マスク、またはそれに準じるもの



## 夏でも快適に過ごせるマスク

マスクを長時間着けると「息苦しい」「蒸れる」などのストレスを感じる。そんなストレスを解消するマスクを制作しました。このマスクは生地にパイル地を使用しており肌に優しく、汗も吸い取ります。またマスク先端部分に表面のガーゼを残して通気口を設けたことにより、風だけを取り込むことができるため、格段に通気性が良くなっています。さらに口周りの空間にゆとりがありリップクリームなどで汚れる心配もありません。紐部分は自分に合った長さで調節する事が可能です。これからの季節に快適で長時間装着できるマスクです。

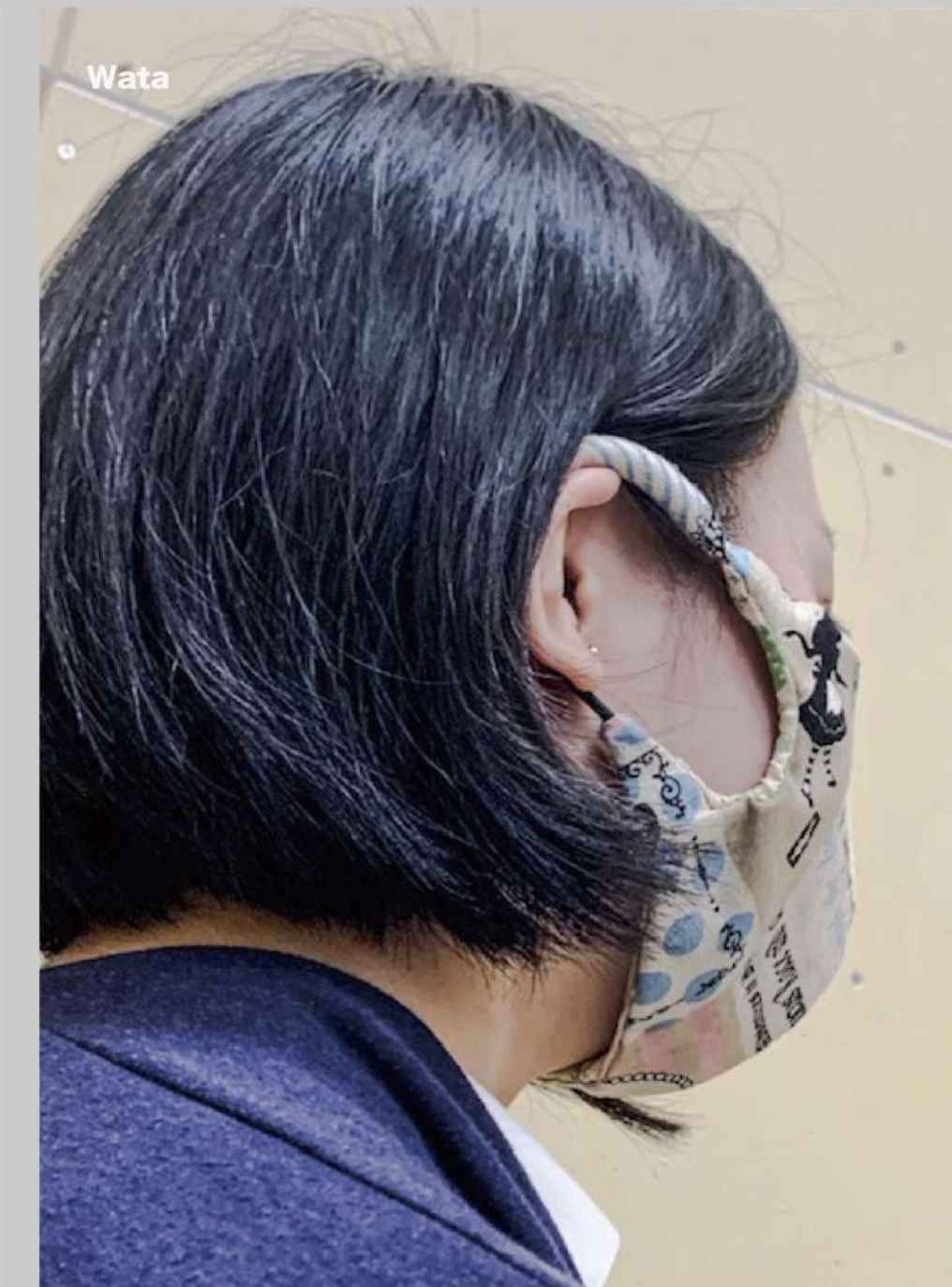
山本 彩乃



## 眼鏡の曇りを解消

私は眼鏡とマスクを同時につける際、眼鏡が曇ることがあり、かけなおすなどの不便を感じてしまう。その為、眼鏡が曇らないノーズパットをデザインしました。既製品のノーズパットは鼻の高さによって眼鏡が曇ってしまうという声が多くあります。それを解消するためにノーズパットを2つにして、自分に合った位置へ調節できるようにデザインしました。素材は弾力性のあるメイク用スポンジを綿で包み、位置の調節と洗濯を想定して取り外し可能なマジックテープで固定するようにしています。

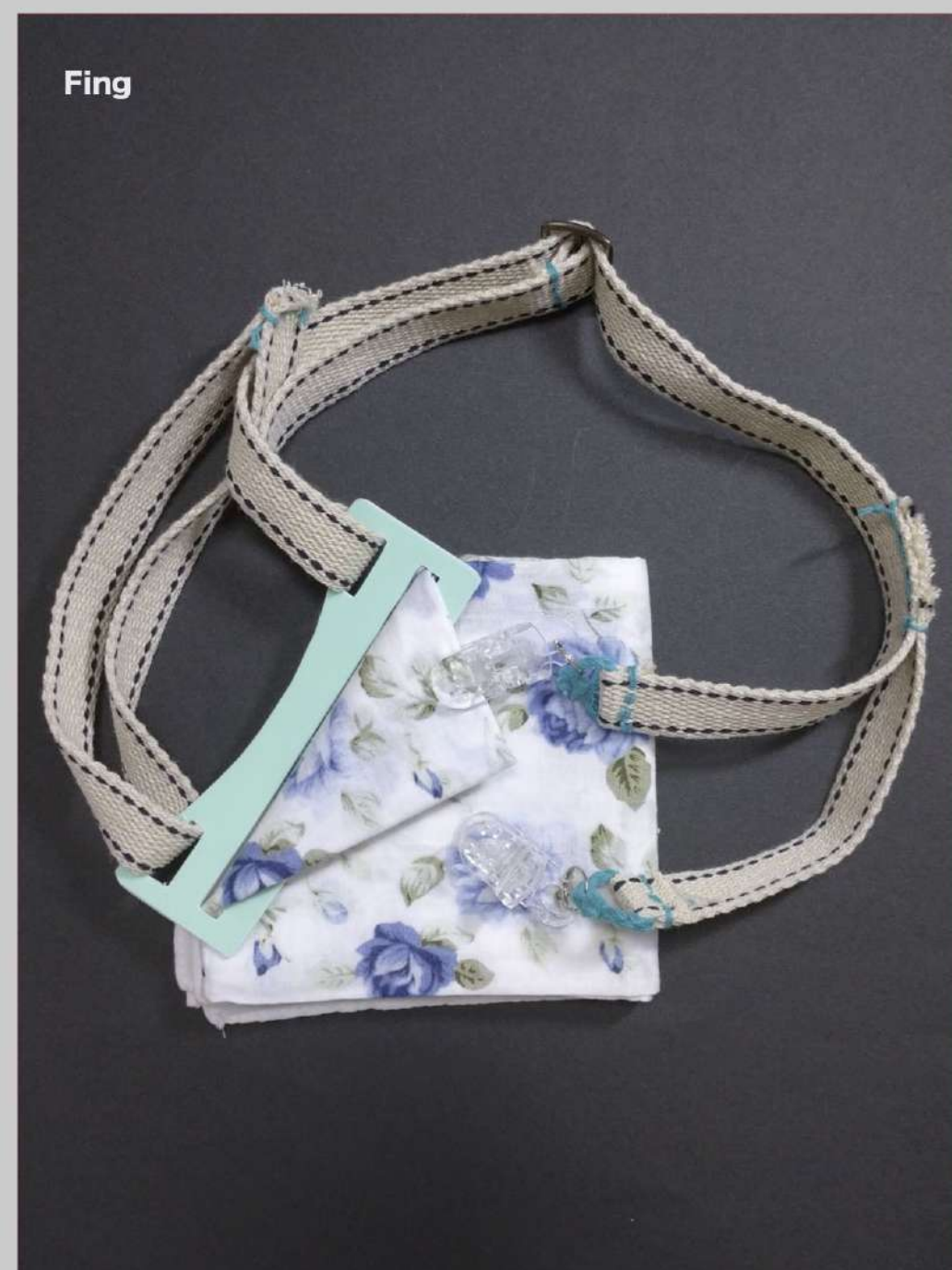
鉢迫 瑞生



## ゴム紐の使用量を少なくしたマスク

現在ゴム紐の入手が困難になっており、身近にある素材で代用できないかと思いました。完成した作品はゴム紐の代わりに綿布でワタを包み、少しのゴム紐を利用して制作したものです。既製品の使い捨てマスクは約13cmの長さのゴム紐を使用していますが、私が作った製品はゴム紐を約4cmしか使用せず、1/3以下の量で製作が可能です。

清末 あみ



## ハンカチをマスクへ代用するアイテム

マスク不足で手作りマスクの着用をする人が増えています。そんな中でゴム紐やクリップといったものも不足し始めています。そこで、使う量を減らすデザインができないか考えました。「Fing」は、布地の引っ張ってもなかなか破けないという特徴を活かしたアイテムです。長いハンカチや手ぬぐいを大きな穴にタオルホルダーの要領で通して、反対側をクリップで留められるようになっています。また、長さの調節はハンカチを留める位置で変更できるようにしています。

清 瑠音



## ゴム紐を使わず、布地をマスクにする

現在、新型コロナウイルスの感染拡大により多くの人がマスクを手作りするようになり、その結果マスク用のゴム紐が入手困難になっている。その為、手入れがしやすく、肌触りが良い綿布で長さ調整ができるマスク用の紐を制作した。「ひばり結び」というストラップをつける時に使われる結び方でパーツを繋げて紐を完成させ、布製品と組み合わせることで利用できる。また紐の幅は肌を感じる違和感が少なく、結び目が目立たない5mm幅に設定している。

河村 采華



## 金網で構成された取り換え式マスク

コロナウイルスの流行により、マスクの素材まで入手が困難になっています。この状況下で私たちはデザインにより社会に何ができるか、というテーマで制作したマスクです。従来のマスクに使用されない素材を用いて制作することでマスク不足の現状を打破しようと考えました。ステンレス製の金網に、補強としてメッキ処理を施したスチールを編込み、直接肌に触れる部分はレザーで被覆しています。また金網を二重構造とし、2枚の金網の間にハンカチ等の布地を挟んで使用することで、口周りの開放感と通気性を確保することが狙いです。

田上 空大

[作品展示のみ] 寺田 啓志 濱田 美月